

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800345		
法人名	大分部品株式会社		
事業所名	グループホーム湧水の郷		
所在地	大分県竹田市大字菅生字木ノ上1169番2		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4470800345-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府番館 1F
訪問調査日	令和4年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇・くじゅう国立公園を望む大自然の中にあるグループホームです。
1ユニット9部屋9人のみで運営している小さな施設です。
大規模な施設の様なタイムスケジュールに縛られた介護ではなく、一人ひとりのペースと要望に沿った日常生活を送って頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道37号線から50メートル道路脇に位置する9名の1ユニットの家族的雰囲気が漂い、大分県と熊本県の県境の大自然で緑あふれた環境の中、利用者がゆったりとした生活を楽しんでいます。料理は、一流のレストラン経験者が作られ、美味しさが味わえます。地域住民の方と利用者や職員が農産物での交流が図られ、安心して暮らして頂ける想いで、介護サービスを提供するだけでなく、施設が利用者にとって暮らしの場となるよう職員間で話し合い創意工夫されています。自分らしく生活して頂くために、どのような支援をすれば良いのかを検討されています。協力医療機関との連携も図られ、コロナで窮屈にならないよう支援に取り組まれ、最期まで自分らしく暮らせることを目指している施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	81期湧水の郷施設内職員研修計画に基づき、月例介護職員会議にて「湧水の郷理念」の研修を行っている。(年1回)	職員研修は毎週火曜日、職員全員参加を基本に行い、欠席者には会議録等を回覧し共有されています。長期化するコロナ禍ではありますが、利用者がその人らしい生活が出来るよう、理念に基づいた取り組みがなされています。	長期化となっているコロナ禍であり、理念の見直し・追加項目等を期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年8月から、緊急やむを得ない場合以外の面会と外部者の施設立入を禁止しています。	コロナで面会等が規制されていますが、重度化防止のため敷地内の散歩等、季節・自然との関わりに配慮した取り組みがなされ、隣接する地域の人から食材の提供があり交流が保たれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年8月から、緊急やむを得ない場合以外の面会と外部者の施設立入を禁止しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年2月28日付の厚生労働省令に準じて、運営推進会議は、資料郵送にて報告しています。(2か月1回)	コロナ禍で参集出来ない中、毎回地区の区長・地域包括支援センター職員等 5名に、コロナ禍での現状や施設の行事状況・外部評価等の報告を行い、交流を保っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	竹田市高齢者福祉課からは、随時メールにて連絡を頂いています。2か月1回の介護保険事業者連絡会等は、ズーム会議で参加しています。従来の集合形式の会議研修は、全てオンライン会議となります。	生活保護法や介護保険法の改正等は、市の担当課と協議するなど相談・指導を受けています。又、利用者の状況・重度化防止など報告しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	81期湧水の郷施設内職員研修計画に基づき、月例介護職員会議にて「身体拘束廃止について」の研修を行っている。(年1回)また、毎月ごとの職員介護時に、職員に周知している。	全職員を対象に、毎月拘束防止対策委員会に取り組みられ、利用者の行動支援をするため家族等の了解を得て、各室にカメラを配置した対応がなされています。スピーチロックが発生しないよう取り組みがなされています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	81期湧水の郷施設内職員研修計画に基づき、月例介護職員会議にて「虐待防止・高齢者の人権について」の研修を行っている。(年1回)			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	81期湧水の郷施設内職員研修計画に基づき、月例介護職員会議にて「倫理及び法令遵守について」の研修を行っている。(年1回)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明については、入居日当日ではなく、事前に説明するようにしている。そうすることで、十分な説明の時間を確保している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」設置しています。 家族訪問時の要望等については、翌日朝礼時に職員に周知しています。協議を必要とす内容は、職員会議議題としています。	コロナ禍であり、家族が一堂に集まっての会議を開くことが出来ませんが、意見箱の設置や施設外に苦情・意見が云えることを家族等に知らせています。又、満足度調査を行い、家族の意向に対応できる取り組みがなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議時等で職員から出た要望や意見については、定例介護会議(オンラインで佐伯本社の社長、部長参加)にて報告、相談しています。(週1回)	ミーティング・勉強会等で支援に対する意見があれば、その都度ケア会議を開き、職員の処遇等重要な案件が発生すればオンラインを活用し、社長等に報告・相談を行い迅速な対応がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与時と給与等級査定時には、人事考課が行われています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修、介護福祉士受験については、受講料、受験料、交通費を支給している。 技能実習生の外部研修時の送迎サポートもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	矢崎総業のグループ各社の行う介護事業所との連携をサポートしています。静岡本社の介護事業チームからは、技能実習生へのサポートをしてくれている。 竹田市事業者連絡会への参加(2か月1回)		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	9部屋9人の利用者に対して、居室担当職員を決めて対応する体制を取っています。全体のプログラムより、その利用者のスタイルやリズムを優先するように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ対策にて面会等を中止しているが、入居希望家族については、居室の様子等を1度は、見て頂く為に、万全の対策をとった上で、見学してもらっている。当施設で出来る事、出来ない事を事前に説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の在宅時ケアマネ、入院病院相談員に連絡を取り、情報を収集している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の勤務中の食事(夜勤者夜食朝食、早番朝食昼食、遅番昼食夕食)は、利用者と共に同じテーブルで食べている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対策にて面会等を中止している都合上、家族と本人で同じ時間を共有することが難しい。 定期的に電話等で近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙(絵手紙等)の材料の購入サポートをしています。また、投函も引き受けています。	重度化が進む状況ではありますが、家族・知人への連絡要望があれば、躊躇せずその支援に取り組まれ、利用者には馴染みの職員を配置し、継続的に安心できる支援体制が構築されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性や相性を観察して、食事のテーブルや居室を考慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム契約終了後も認知デイへの、利用変更は、可能です。事例があれば、案内しますが、死去以外の契約終了がありません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や、プラン切り替え時のアセスメント表に本人の希望や意向を聞き取り、反映しています。	利用者本人が直接話すことが出来る時は、要望を聞き希望に沿った取り組みがなされ、利用者の楽しみである食事支援では、食べ物の量・味付けなどで表情の変化を汲み取るなど対応がなされています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時ケアマネや入院時病院相談員からも情報を頂き、入居時のアセスメント表に本人の希望や意向を聞き取り、反映しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌の個人ごとコメント欄に日々の様子は、記録され、日々の朝礼時に申し送られることで、全職員に周知される。また、定例の職員会議にて個別処遇について討議されている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のサービス担当者会議の開催時には、CM,担当職員、管理者だけでなく、できる限りは、家族の同席を求めている。但し令和2年4月からはコロナ対策の為、施設職員のみとなる。	コロナ禍であり、家族等が参集しての情報・支援方法は、厳しいですが各関係者へ電話等を活用し、本人本位の介護計画に取り組んでいます。又、利用者の状況変化が生じた時も同様な取り組みがなされています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日単位の業務日誌に日々のコメントを記入している。また、利用者の職員担当を配置して、月1回の職員会議にて利用者の処遇対応討議を1人づつしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の外部病院への入院時等は、新型コロナウイルス感染症対応もあり、県外在住家族の来訪が困難な場合がある。その場合は、家族了承のもとで、家族に替わっての手続き・洗濯等に対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やご近所の方との連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に従来通りの主治医による継続的な医療が受けられることを、本人・家族に説明し安心してもらっている。	利用者が希望するかかりつけ医となっています。定期的な健診や専門医への支援体制も整えられ、変化があった時は迅速に電話で家族に連絡し、医師の指示を受けて対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関と連携を密にし、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平時から病院関係者（特に相談員）と連絡や挨拶を密に取ることを心掛けています。特に竹田市中核病院の竹田医師会病院の相談員には、定期的に営業活動を含めて訪問をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に当施設で出来る事と出来ない事については、説明をしています。施設資源的に「看取り」は、出来ない事となっていますが、主治医と相談して医療機関との連携が出来る事を説明しています。	施設として、出来る事を文章にし説明され、その際家族からサインを頂いています。状態の変化に応じて医師から指示を受け、同時に家族に相談し、利用者にとって最適な環境への支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを常備している。特に夜勤帯の1人勤務時のサポート体制を確保している。（夜間オンコール担当職員配置）		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し各担当者を決めている。地区分館長や近所の人達、地元消防団にも協力要請をしている。	年に一度は、消防署の方の協力を得ながら訓練を実施しています。コロナ禍のため、地元の方の参加はないものの協力要請は引き続きお願いしています。今後は、夜間想定訓練を予定されています。	夜間想定訓練を実施され、今後の避難対策がより充実されたものになる事を希望します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員教育として「介護は、サービス業である」ことを再確認しています。また、トイレ、浴室、居室での身体介護時は、プライバシー保護の為、必ず戸口を閉めることを徹底しています。	職員全員で定期的に研修を行い、尊重とプライバシーの共通認識を持ち利用者の処遇に反映されています。特に、個室でのプライバシーへの配慮は常に配慮しながら支援に繋がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「聞いても分からないだろう」「やりたいことなんかないだろう」と考えずに必ず本人に聞いてから介助を始める様に指導しています。思い込みを捨てて、必ず声掛けしてから介助を始める様指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	湧水の郷の特徴として「小規模9人施設なので、個人の希望に沿った生活が出来る」ことをセールポイントとしています。個別の希望に沿った介護を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部の散髪店に施設に出張散髪をお願いしています。(2か月/1回) 個人的に髪染め等を希望する場合は、個人的に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おにぎり作り、盛り付け、片付け、テーブル拭き等は、利用者に協力してもらっています。 また、職員の食事も利用者と同時にしています。	食事は、職員も利用者と同じものを食べ、内容やメニューも充実されています。近隣の方の差し入れもあり、食事に反映されています。準備・片付け等も出来る方には手伝って頂き、イベント食も利用者と職員と一緒に楽しみながら取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日単位の業務日誌に毎食ごとの主食副食摂取量、水分摂取量を記録しています。 日々の変化を観察して、必要時は、主治医相談にて栄養補助食品等でサポートしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けもしくは、介助を必ず行っています。業務日誌に毎食後ごとに記録をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日単位の業務日誌に1時間おきの排泄記録を記載しています。これにより、個人毎の排泄パターンを把握しています。排便コントロールや夜間ポータブルトイレの使用判断の材料にしています。	職員全員で、利用者の排泄記録をすぐに確認でき、支援に繋げられる体制を整えています。個々に添って、出来るだけトイレでの排泄支援を大切にされ柔軟に対応されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日単位の業務日誌に1時間おきの排泄記録を記載して排泄の有無を把握しています。必要と判断時は、頓服指示薬を服薬介助しています。また、日常の献立に食物繊維や乳製品の使用を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月水金か火木土)の入浴を介助しています。但し、本人の希望により入浴日を変更出来る様に配慮しています。	利用者の、体調や気分を大切にしながら、ゆっくり気持ちよく入浴して頂けるよう体制が整えられています。	入浴を、楽しんで頂けるような支援に期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を確保する為に出来るだけ日中は、活動時間に当てています。希望があれば、お昼寝も短時間で介助しています。夜間の就寝時間も個人の希望時間に沿って介助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日単位の業務日誌に服薬介助確認を2介護職員にて行い、記録しています。処方薬の説明ファイルを個人毎に作成して何時でも閲覧できます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野球観戦・相撲観戦・畑仕事・料理・晩酌・欲しい物(牛乳・コーヒー・お菓子)等全てを希望があれば対応可能としています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内(フェンス内)への散歩外出は、何時でも出来るようにしています。※外部への外出は、新型コロナウイルス感染症対策として、行っていません。	コロナ禍で外出は控えられている中、通院などで外の環境を楽しんでもらったり、自然に恵まれた環境の中敷地内での散歩や畑の手入れ等で、気分転換して頂けるよう支援されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金を預かっており、能力に応じ、家族と相談しながら購入時にお金の支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みについては、自己責任にて持ち込んで使用できます。また、家族への電話を希望した場合は、介助しています。手紙の投函も引き受けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に触れるところに花や観葉植物等をおいて、季節を感じながら居心地良く過ごせるようにしている(こいのぼり・雛人形など)又いつでも読んだり見たりできるよう新聞を置いている。	利用者と一緒に、季節ごとの壁面飾りを作っています。安全・安心に過ごせるよう工夫されています。利用者の体調や、その時々のお気持ちを大切に柔軟に対応され、感染対策や温度・湿度管理も常に気を配り、居心地よく過ごして頂けるよう様々に工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置しています。囲碁の対戦を希望されれば、用意をします。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	貴重品を除いて、個人の居室への持ち込み品の制限は、ありません。	馴染みの物を持ち込んで頂いたり、利用者が居心地よく過ごして頂ける居室づくりに取り組まれています。最近では家族の許可も得て、各居室にカメラを設置されています。利用者も変わりなく受け入れています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やホールは段差がなく手すりを配置し、トイレや浴室は滑らないよう工夫されている。又歩行線路上に障害物を置かないようにしている。		